

日本の将来推計人口と本市の人口推移について

1. 日本の将来人口推計

(1) 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計

- 令和5年4月に国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）が、令和2（2020）年国勢調査の確定数を基に新たな全国将来人口推計を行った結果を「日本の将来推計人口（令和5年推計）」として公表。
- 日本の総人口は50年後に現在の7割に減少し、65歳以上人口はおおよそ4割を占め、前回推計（平成29年）よりも出生率は低下するものの、平均寿命が延伸し、外国人の入国超過増により人口減少の進行はわずかに緩和

(2) 人口戦略会議による提言「人口ビジョン2100」

- 民間有識者らで作る「人口戦略会議」は2024年1月、人口減少を食い止めるための提言「人口ビジョン2100」を発表。
- 現状のままでは2100年に人口は6,300万人に半減。また、高齢化率が40%（2022年：29.1%）まで上昇
- 安定的で、成長力のある「8000万人国家」を目標に、人口定常化を図る「定常化戦略」と、質的な強靱化を図る「強靱化戦略」という二つの戦略を提唱。

I. はじめに ー今なぜ「人口ビジョン2100」を提言するのかー

1. 人口は半減、4割が高齢者に

- ・このままだと、総人口は年間100万人のペースで減っていき、わずか76年後の2100年に6300万人に半減。これは高齢化率が40%の「年老いた国」でもある。

2. 遅れを挽回するラストチャンス

- ・出生率は過去最低の1.26、年間出生数も77万人まで低下し、少子化の流れは全く歯止めがかかっていない。
- ・遅れはあるが、まだまだ挽回可能。決して諦めず、世代を超えて取り組まなければならない。政府も「2030年までがラストチャンス」と危機感を明らかにしている。

3. これまでの対応に欠けていたこと

- ・第一は、人口減少の深刻な影響と予防の重要性について、国民へ十分な情報共有を図ってこなかったこと。
- ・第二は、若者、特に女性の意識や実態を重視し、政策に反映させるという姿勢が十分ではなかったこと。
- ・第三は、「現世代」には、社会を「将来世代」に継承していく責任があることを正面から問いかけてこなかったこと。

4. 安定的で、成長力のある「8000万人国家」を目指す

- ・2100年を視野に据えて、目指すべき目標を提示。
- 第一は、総人口が“急激”かつ“止めどもなく”減少しつづける状態から脱し、8000万人で安定化させること。
- 第二は、現在より小さい人口規模であっても、多様性に富んだ成長力のある社会を構築すること。
- ・これらを通じて、国民一人ひとりにとって豊かで幸福度が世界最高水準である社会の実現を目指す。

5. 「定常化戦略」と「強靱化戦略」

- ・人口減少の流れを変えるには長い期間を要するため、今からすぐ有効な施策を実行しなければならない。その戦略として、①「定常化戦略」（人口定常化を図る）と、②「強靱化戦略」（質的な強靱化を図る）を提示。
- ・政府が人口戦略の立案・遂行体制を整備するとともに、国会において超党派で取り組んでいくことを期待。
- ・働き方改革など社会規範をめぐる課題や個人の価値観にも関わるようなテーマが多く、企業をはじめとする民間や地域の取り組み、国民的な論議が重要。

6. 今こそ総合的な「国家ビジョン」を

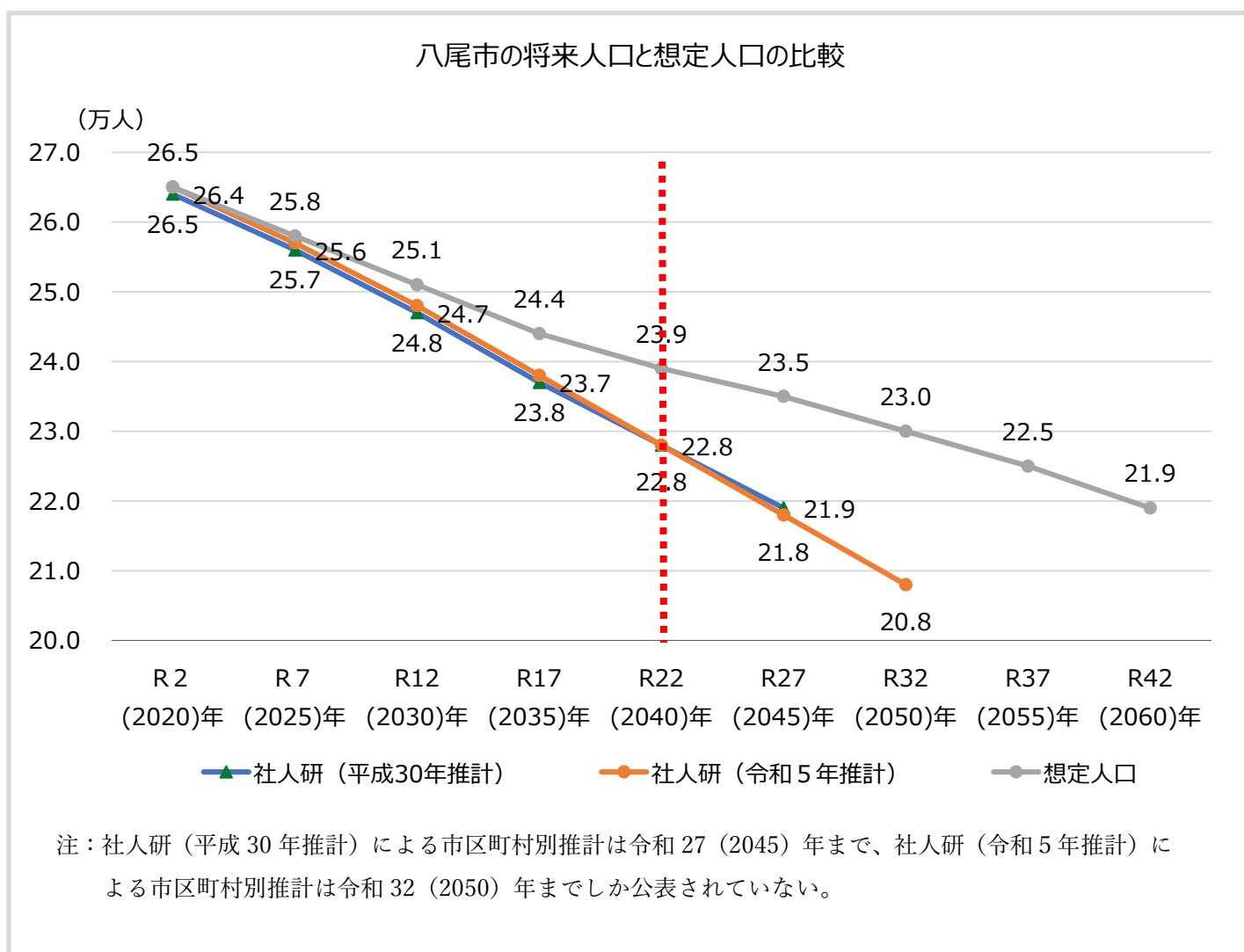
- ・今まさに、国民全体で意識を共有し、官民あげて取り組むための「国家ビジョン」が、最も必要。

(3) 社人研による人口推計と本市想定人口との比較

○想定人口とは、令和3（2021）年3月に作成した第2期八尾市人口ビジョン・総合戦略において、本市の近年の社会動態のうち、20代及び30代の社会動態がゼロと仮定し、かつ合計特殊出生率が令和12（2030）年までに1.8、令和22（2040）年までに2.07、その後も2.07を維持すると仮定して人口を推計したもの。

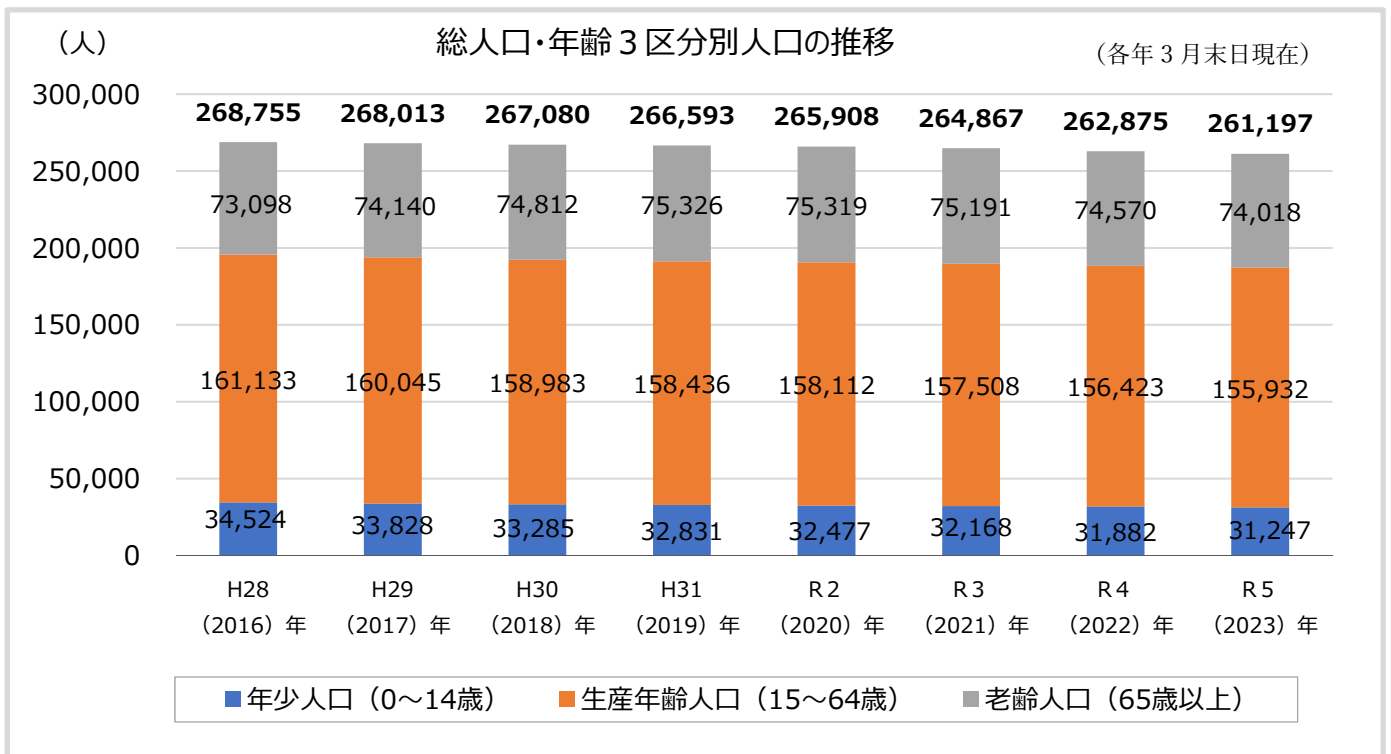
○想定人口では、令和42（2060）年時点で21.9万人と推計しているが、社人研（令和5年推計）では、令和27（2045）年時点で21.9万人と推計。

○社人研（令和5年推計）では、社人研（平成30年推計）と比較して、令和22（2040）年までは人口減少が緩やかになるが、それ以降は人口減少が進行。



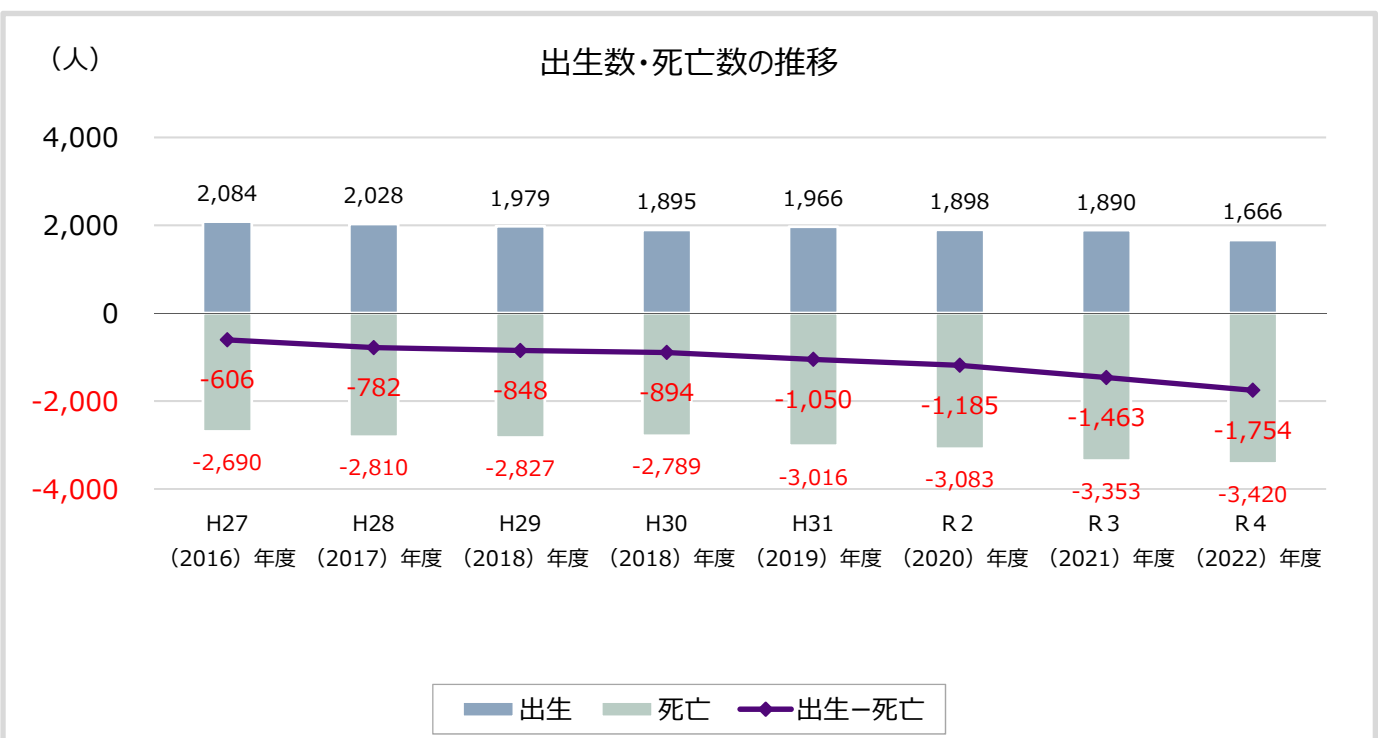
2. 総人口と年齢3区分別人口の推移

- 総人口は、H28（2016）年の268,755人からR5（2023）年には261,197人と、7,558人減少
- 年少人口（0～14歳）は、H28（2016）年の34,524人からR5（2023）年には31,247人と、3,277人減少
- 生産年齢人口（15～64歳）は、H28（2016）年の161,133人からR5（2023）年には155,932人と、5,201人減少
- 高齢人口（65歳以上）は、H28（2016）年の73,098人からR5（2023）年には74,018人と、920人増加



3. 自然動態

- R4年度の出生数は1,666人、死亡数は3,420人で、1,754人の自然減となっている。
- 出生数は減少、死亡数は増加傾向にある。



4. 社会動態

○R4 年度は転入者数が 8,061 人、転出者数が 8,523 人で、462 人の転出超過となったが、その他を含めると 76 人の社会増となった。

○外国人住民数は R5（2023）年で 8,101 人と、H28（2017）年以降最も多い数値となった。

